

社会福祉法人 友愛十字会

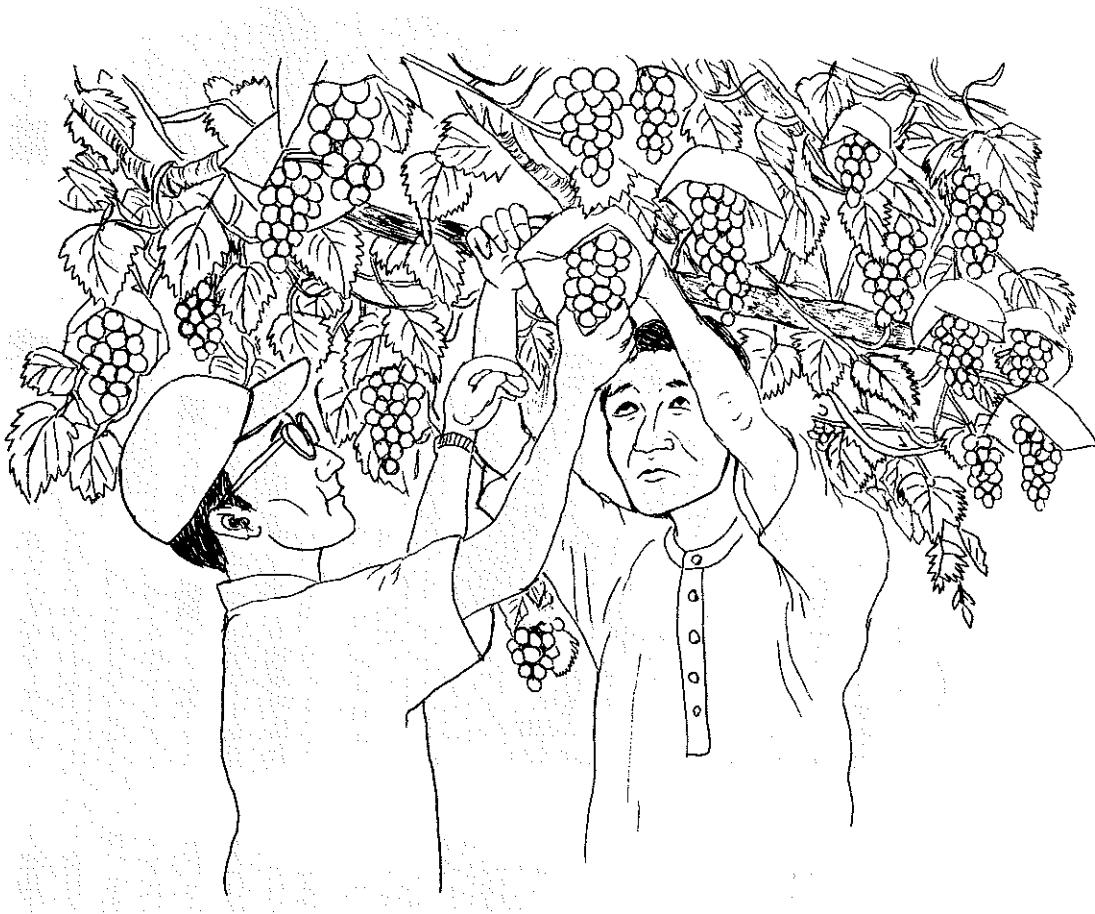
ゆうあい

1991

7・31

No.11

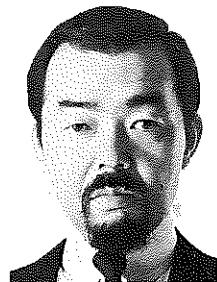
題字 前総裁 三笠宮崇仁親王殿下



宿泊訓練でブドウ狩りをするところ(ろうあ者更生寮利用者 谷内えみ子さん画)

## 主な記事

- 雜 感 ..... 総裁 審仁親王
- 友愛の道 ..... 評議員 宗石文男
- 海外研修に参加して ..... 世田谷更生館
- 「朝日新聞」のとりあげた友愛荘「書道クラブ」 ..... 友愛荘
- グラビア ..... 友愛荘ろうあ者更生寮
- 農作業を楽しむ学生 ..... 東京都ろうあ者更生寮



## // 雜感 //

社会福祉法人 友愛十字会

總裁 寛仁親王

足掛け二〇年、福祉の世界に身を置いてみて、色々な感慨を憶える。

一番大きな変化は、社会が曲りなりにも福祉を重要視するようになつたことだろう。

私は理念と哲学をたまき込んでくれた故片岡みどり女史は、いつも区別することでなく、「共に生きる」ことだと言い続けた。

健常者がやれることは、あるいはやっていることは、総て挑戦してごらんなさいと勧めた。

この手の発想は二〇年前、異端の発想に近かつた。女史の声を広めるべく、我々は国内のあちらこちらで、説明を繰り返したのだが、迫害に近い反響が多かつたことも事実である。

我々は「正しいことは正しいことですよ」といって気にせず啓蒙活動のための実践を繰り返した。途中で国際障害者年が始まつたことは大きなヘルプになつた。

ともかくひとつの結論として、障害を持つ者が街中を歩いていても不思議に思わなくなつたことがある。元々当たり前であるべきことだつたのだが、当たり前のことが出来ないのが人間

だし、恥や見栄の文化を持つている日本の社会では、一際大きなことであつた。

十字会の人々も、今では、皆と共に走り回り、ボーリングを投げ・スキーをするといった類いのことが、不思議なことではなくなつたはずだ。

数年前、カナダの車イスの青年リック・ハンセンが、世界一周四万km車イスツアーワーの一環として日本訪問を企画したとき、受け入れ側の責任者だった私は、信じられないスポーツマンが現れたと理解した。私の友人に、マッキンレーで消息を断つた植村直己という世界を代表する探検家がいる。私の知る限り、R・H出現以前の個人記録は、植村直己の三千kmであったはずだ。これと単純比較しても四万kmは天文学的数字であった。「四万kmとは何ぞや?」と問うたら「地球一周の距離です。」ときた。

我々はマジに、想像を絶するアイディアと、完走させたいというタフな気力に敬意を表して日本国内千六百kmのお膳立てをした。事前の記者発表においても、我々は運動部の記者の派遣を要請した。社会部記者では、お涙頂戴方式に

なりかねず、「障害を乗り越える不屈の闘志……」と標題にされるのが落ちであろうと考えた。

彼は今、世界一周の際、アピールした「脊損財團」を本当に設立し、親方になつて、車イスをオリンピック種目にしようと運動している。このことが良いか悪いかはともかく、とんでもない

アイディアをベースに「完全参加と平等」のスローガンを彼なりに達成したことは事実である。

ロスアンゼルスオリンピックの際、ニュージーランド選手団の行進のトップは素敵な車イスの女性だつた。アーチエリーの堂々たる代表選手で、この時は勝てなかつたが、後に英連邦大会では優秀な成績を残したことが、ニュースでわかつた。彼女が、我々の望む最高峰のモデルであろう。「やれば出来る」のいいお手本である。

しかしながらおかしな風潮も沢山でてきていることも事実である。「がん」に冒された患者さんがサポーターと共に、ヨーロッパの山行に成功した。車イスの人が富士山に挑戦した。同じくスカイダイビングに成功した等々である。

私は「がん」に取り付かれる以前、五体満足であったが、スカイダイビングをしようとは思わなかつた。「がん」に取り付かれた今、元々達の訓練のために山に入るが、そのことをニユースにしようなどとはハナから思つていらない。やるべきことは、生死のかかわる山行や空間以外にも他に沢山あるはずである。

# 友愛の道

友愛十字会 評議員

宗石文男

急速に衰退、変質して  
いる在来からの伝統的

家族制度のありようを見ていても、こうした新しい福祉社会を早急に必要としていると思われてなりません。

平成二年に成立した福祉関係八法の改正を軸に、政府の高齢者保健、福祉十ヶ年戦略が一段と進展し、老人福祉を柱とする新しい気運のたまりをひしひしと感じます。

施設を経営する社会福祉法人に身をおく者として、この福祉戦略により大きく変貌する諸施策にどう対応するかが一番気になることです。

肝心なことは、これを支えるのに充分な人材をどう確保するのかで、これが円滑にできるかどうかとということでしょう。国においても福祉マンパワー対策について、積極的に検討を進めているようですが、一刻も早い施設従事者待遇の抜本的改善をはかつてほしいと願っています。と言いますのも、福祉施設がその一翼を担つて、二十一世紀にむけ「だれもが、いつでも、どこでも必要とするサービスが受けられる」そんな地域福祉の方向を目指した、長寿福祉社会構築のための原動力の一つになるからであります。

また、身体障害者にとって生活しやすい社会とは、老人や身体の弱い人にとっても生活しやすい社会であり、すべての人があん心して住める

生活しやすい社会であると思います。待ったなしで押し寄せる高齢化社会と、第二次大戦後、それも近年に至り

となっています。

ところで友愛十字会は、身体障害者並びに老人の各福祉施設を総合的に多年にわたって経営し、常に民間福祉事業として先駆的な実績をあげてきました。さきに本部事務所、世田谷更生館、友愛園等の増設築を計画、取り進めてきましたが、この度当事者の努力が実を結び、国、都及び世田谷区当局から多大の助成協力を受け、身障、老人の複合施設として、その全容を一新されることには誠に慶びにたえません。

最近の福祉施設は、経済力の向上に伴い、国、地方公共団体等の幅広い助成と当事者の不斬の努力によって著しく充実し、特に老人関係の建物は、利用者の処遇に適した内容を備える等、

地域の中でも一段と目を引く存在となつておりますが、その反面、施設運営上最も重視しなければならない人たちの処遇の問題については、利用者の環境の悪化に対応できる人手がないことなどがネックとなつて種々の問題が生じています。特に特養老人ホームにおいては、寝たきりや、ぼけ症状を示す老人が増加しているので、介護にとつて一番大切な血の通つた家族的対話が不十分となり、老人一人一人の気持ちを理解し、老人が主体性を持つて生活ができる、そんな介助が人手不足等のため次第に手薄になりつつあることは、誠に憂慮すべきことであります。

処遇上必要な人材を確保するため、いまや、マンパワー対策の確立は、施設を運営する法人にとって欠かすことのできない大きな課題の一つ

(社会福祉法人 東京都福祉事業協会 常務理事)

# 海外研修に参加して

友愛園指導部次長 丸山和三

平成二年十一月十日から一四日までの十五日間、東京都福祉局主催の「平成二年度社会福祉人所施設職員等海外派遣研修」に参加し、スウェーデン、イギリス並びにフランスのヨーロッパ二カ国について見聞する機会を得た。

総勢三四名の派遣職員は施設種別により四班に分かれ、それぞれ研修テーマを決めることがなった。われわれのグループは身体障害者（児）及び救護施設職員による五名で、研修の主なテーマをマンパワー対策と利用者の施設生活状況としたほか、私個人の研修課題をノーマライゼーションの思想と現実に絞った。

## 一、スウェーデン

始めの訪問先スウェーデンでは、ストックホルム市で行政説明を受けた。

スウェーデンでは失業率が1%余という状況で、女性労働者の増加に伴い保育所の確保が必要となっている背景から、児童施設の概要説明が中心であった。最近の問題ケースとしては、

麻薬やアルコール中毒等様々な心理的圧迫を受けており、地方自治体が地域の問題として対処するよう地区

分散方式の援助指導を実施しているとのことである。

観察先は、身障者サービスハウス並びに精薄者のが更生施設（居住グループ）であり、ここで

シヤワー、拡大ビデオシステム及び数秒の振動m<sup>2</sup>）のスペースに、可動式システムキッチン、でコイルが鳴るベッド等の設備があった。氏は脳腫瘍手術の後遺症による言語、記憶及び身体の障害のほか癲癇症状がある。収入は障害年金、住宅手当及び早期年金で、家賃は月額約九万円。同氏の負担金は月額約八千円である。

一階にスタッフの詰所があり、正職員三〇名、パート二〇名が配置されていた。ナースコードは十二戸の障害者住宅の二四時間体制で連動していた。

施設の特徴としては、本人の意思で介護スタッフを選ぶことができ、家族と過ごす週末は、職員に支払うべき賃金を時給で家族に支払われる。映画等の外出時の介護職員の費用は一ヶ月十五時間まで税金で支払われる。

## 二、イギリス

イギリスでは、ハックニー区で社会福祉政策の概要説明を受けた。ソーシャルサービスの提供形態は中央政府、地方自治体及びボランティ



パリの社会復帰センターの前にて、(研修生全員)筆者は後列右から八人め。

アの三本柱からなつており、一九五〇年代に生まれたコミュニティーケアの変遷や行き詰まつた現状を強調していた。

特徴は、社会福祉の対象者が児童と成人に区分され、児童に関する法律が進んでいるので、予算上でも全体の七五%を占めるほどである。

しかし、この傾向も福祉全般の多様なニーズの高まり等により、修正時期に入ってきたようで、一九八九年の新児童法では社会福祉が児童福祉に偏らないよう他の福祉とのバランスを考慮し



ストックホルムにある精神薄弱者の居住グループ「カールスラント」の居間

たものとなつていた。

また、印象的だったのは一九七〇年代から進められてきた地域ケアも、現在では予算や老人人口の増加等の問題への対応に限界が生じたので、コミュニティーケアを中心とする福祉サービスのあり方が再検討されていることであり、ハウスケアの方法やボランティア団体との協力体制等について様々なプランが検討されている。

イギリスでの視察先は、ワークショップ（通所授産施設）、保育園（特殊児童）、ディセンター（身障者）及びインフォメーション・アドバイズセンターであったが、ここではメンタモアインダストリーというワークショップの概要を紹介する。

#### ○メンタモアインダストリー

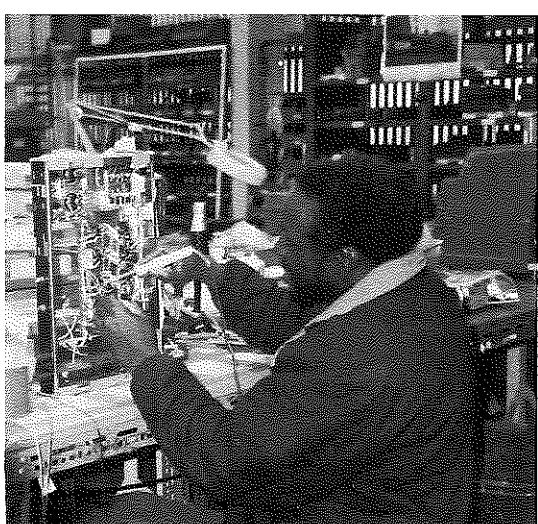
ハックニー区と中央政府による共同出資で設立。年間運営費は六〇七五万円。同区より一人月額単価七万円の補助金が出ている。

ここでは十八名のオペレーターと呼ばれている人が通所しており、殆どが身体障害者で少数の知恵遅れの人のがいた。労働時間は平日は七時四十五分から十六時までで、金曜日は七時四十五分から十二時四十五分までとなつており、一週三五時間労働である。工賃は地方政府の補助金を含めて全員一律二〇万円が支給されている。

職員は、スーパーバイザー、マネージメント、

事務、ドライバー及び雑務の合計十一名がすべて地方公務員。職員の資格は特に必要無いが、半田付けや機械操作等の指導に当たる者には必要とされる。

授産科目は音響製品のアンプ組立、旋盤及びボルト盤による機械部品の加工等であり、各種機械類には安全装置が無く、一般企業と同じ状況で作業を行っている。イギリスにはこのような施設が五、六七五ヵ所あり、一四、〇〇〇名以上の障害者が就労していて、ワークショップで就労可能な待機者は五、〇〇〇名もいるそう



イギリス、ロンドン、ハックニー区のワーク・ショップ（通所授産施設メンタモア・インダストリー）の作業風景（音響製品製

である。

### 三、フランス

フランスではオアズ県の愛の巣協会（精薄児者）、パリの社会復帰センター（一時保護・授産）、婦人施設及び養護老人ホームを視察した。

ここでは、社会復帰センターの概要を紹介する。

#### ○社会復帰センター

本会總裁二等官 寛仁親王殿下には、本年一月十四日に入院になり、同十九日に手術を無事終了され、三月三日に退院後の経過は、極めて順調にご回復されていると伺つており、本号にも巻頭言を頂戴いたしました。殿下のご回復を役職員、入所者一同心からお喜び申し上げております。

### 叙 勳

当法人の加藤威二理事長は、今春の叙勲に際し、勲二等旭日重光章を受章されました。

一九二五年設立の公立施設であり、二七歳から六五歳までの健常者に対し、一時的に宿舎を提供する部門と就労意欲のある人には公的施設

関係のメンテナンスを中心とした仕事を提供する部門がある。三三名の職員が三交替で勤務していた。

社会復帰部門の授産の内容は、印刷、木工、塗装、自動車修理及び溶接等であり、就労時間は七時間で工賃は日額一八、〇〇〇円から二

三、〇〇〇円である。現在三三〇名が利用して



ストックホルムにある精神薄弱者の居住グループ  
「カールスラント」の居室の一部

おり、平均年齢は四三歳であった。  
最後にヨーロッパ三カ国を視察した総合的な感想をまとめとしたい。

私にとつて始めての海外研修であり、見聞きするすべての物が新鮮でインパクトの強い印象を受けた。勿論、福祉先進国の一端を垣間見た範囲では想像の域を脱しないが、ヨーロッパ三カ国の福祉行政の流れは、主導権が地方自治体に移行しており、在宅福祉を目指すことが正常生活形態であるという考え方である。日本でも平成二年六月に国会で可決された福祉関連八法改正の趣旨はこれらと同様の意味であると感じた。

また、ノーマライゼーションの目的は、個人の人間としての尊厳を最も重視した生き方は何かを追求していくことではないかと考えている。しかし、マンパワーの限界及び処遇向上のための手段として、小規模でファミリー感覚の施設の必要性は考えていた。何故ならば在宅では適正なケアを受けることが困難なケースや孤独な生活に耐えられないタイプ等、現況で施設生活が最高の環境である人々も多くいる事実を無視することはできないからである。われわれ社会福祉施設従事者は、この現実を直視し施設利用者に対して家族や家庭の代替ではあってもその水準に到達するよう精進することが当然の使であると痛感した。

投

稿

## お誕生会に出席して

友愛荘 小川波子さん家族

仙台市在住(長女) 小川允子

たと思う事は何時かしら、何が楽しい事だったのかしらと今尋ねても確かに答えは返つて参りませんが、本当に何時も耐えて耐えて辛抱の連續ではなかつたかと思います。

でも持ち前の明るさと素直さで切り抜けてきたのでしよう。

父は昭和三十三年に亡くなりましたが、その後七十歳を過ぎた頃より氣楽に暮らしたいと、

猛暑の続いた夏もようやく終る頃、八月末のお誕生会に私も出席させて頂きました。

八月生まれは母一人との事で、母はスターのように胸にお花を飾つて頂き、かしこまつて居りました。

このような晴れがましい席でお祝いをして頂くなんて結婚式以来、八十四歳の今まで初めての事ではないでしょうか。私も皆様の暖かいお心が身にしみて嬉しく胸が一杯でございました。母もきっと同じ思いであつた事と存じます。

母は幼少の頃、六歳、八歳で両親を亡くして叔母に育てられ、父と結婚後も頑固な軍人の妻として姑に仕えながら、昭和の動乱の中、戦地に赴く事の多かつた父の留守を守り、私達三人の子を育ててくれました。私の記憶の中でも父は何時も戦地にあり、家にあつても馴じみ難く、思い出すのは何時も働いて居た母の姿ばかりです。



方々のやさしい思いやりと行き届いたお世話を頂き、今は皆様と共にいろいろな行事やお習字、お花、コーラスなど楽しい事も多くお蔭様でこちらの生活にも馴れて來たようでございます。いろいろ不安な時を過ごし、今ようやく心安らかな母の笑顔を見て私もほつとして居ります。

これも本当に皆様がやさしいお心で接して下さるお蔭と心から感謝致して居ります。

母が以前作りまして何かの賞を頂いた川柳に、「さりげないやさしさ老いの身にしみる」

という事がございましたが、今母もしみじみ感じている事と思います。判つていながら仲々出来ない娘です。私も遠くに住んで居りますので仲々来られませんが、出来るだけ上京して元気な母のお相手をしたいと思つて居ります。

この原稿が印刷されます頃はもう雪が散らつく頃かも知れません。暑い時も寒い時も心をこめてお世話下さる友愛荘の皆様に、深く御礼申し上げると共に、これからもどうぞよろしくお願い致します。



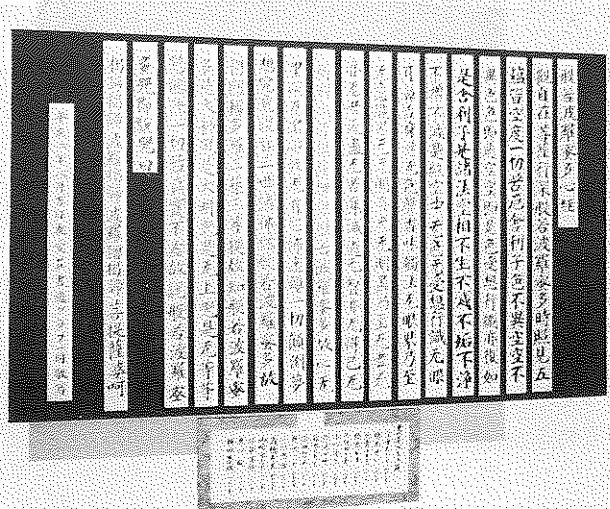
# 「朝日新聞」のとりあげた

## 友愛荘「書道クラブ」

九月十二日付朝日新聞（朝刊）多摩版に「合作の般若心経」と題して友愛荘書道クラブの共同作品が写真入りで掲載された。突然の朗報は友愛荘内を沸かせ、とりわけ書道クラブ員はここに至るまでの道のりを思い、感慨深かつた。簡単にその歩みをたどってみよう。

年が明けた頃から、昨年の文化祭展示会の成果から今年は更に前進し、みんなで協力して般若心経を分担して写経し、ひとつの大好きな作品に仕上げてみてはとの問い合わせが書道クラブ講師谷口棕林先生よりなされた。当初は一七四文字の般若心経の全体を見て、多少の戸惑いはあるものの、反対する人は一人もなく、やりとげることができるとどうかわからぬけれど、とにかくやってみようという事になつた。そこで新年度の年間計画の中に毎年敬老週間に開催される町田市老人クラブ展覧会出品作品へのとり組みとして、大きく位置づけた。

全体を十七行に分けて先生にお手本を書いて頂き、各々自分の力量にあつた部分を引き受けた。書き出していくと、いつも練習している文字よりも小さめに書かなければならぬし、画



数が多く、これまでの通常の練習のようにはいかなかつた。しかし、ひとりもなく、繰り返

し練習していくうちに何とかサマになるようになつていつた。実際にとりかかつかのは春の二月、仕上がつたのは八月、その間空抜きに通常の練習も取り入れたが、足掛け半年をかけて仕

生は、とても有難いことだと喜ばれた。これがたつのも忘れて協力した。このことを谷口先生は、老人クラブ活動に直接関与していない職員も時間

がたつのも忘れて協力した。このことを谷口先生は、とても有難いことだと喜ばれた。

九月十三日クラブ員全員で版画美術館に出向

き、老人クラブ展覧会を見学した。多くの秀れた作品の中でも友愛荘書道クラブ共同作品は一段と引き立つて見え、クラブ員はしばし見入り、充実感を味わつてゐる様子であつた。時間をかけて自分が書いた箇所には特に愛着がある反面、もつと上手に書けばよかつたと感想をもらす人もあつた。沢山の作品の中で自分の欠点を知り、次へのステップとすることも展出の大きなねらいであることを考えれば、クラブ員は貴重な経験をしたことになる。

最後に、指導にあたられた谷口棕林先生のコメントを掲載しよう。

「年齢、立場を越えてみんなで協力してひとつの作品を作り上げたことが素晴らしい。指導者がいくぐら言つても、書く人がその気にならなければできることではない。写経ということがお年寄りに合つたのかもしれない。友愛荘のお年寄りはいたしましたもの、指導のし甲斐がありました。」

仕上げはベニヤ板に布を張つた上に各々が書いた部分を一枚ずつ丁寧に張りつけていつた。それは慣れない作業ということもあって意外な程時間がかかつたが、元気なクラブ員の他に平素クラブ活動に直接関与していない職員も時間



魚つり(ろうあ者更生寮)

『クラブ活動』の一環として、ニジマス釣りが神奈川県津久井町の早戸川国際マス釣場で行われた。日頃余暇活動の少ない寮生にとって、この日はのんびりと釣り糸を垂れることができたうえに、沢山のニジマスを土産にすることことができ、本当に嬉しそうでした。

(平成3年5月19日)



演劇祭(ろうあ者更生寮)

板橋手話の会、学童保育クラブ等、地域住民の参加を得てろうあ者更生寮の演劇祭が集会室の仮設舞台で行われた。入所生を中心に結成された『劇団しむら』の演目は『花咲か爺さん』で、約1ヶ月間の猛練習の結果、予想以上の反響に寮生一同大喜びでした。

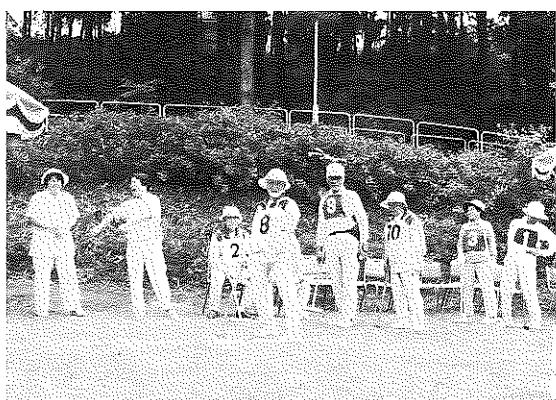
(平成2年12月16日)



ボランティアに手をひかれて近くの町  
田市立藤の家を見物する友愛荘の老人



4月に行われた施設側と家族の方々  
との懇談会。(友愛荘食堂にて)



地元の老人クラブと地域交流  
(ゲートボール)する友愛荘の人々

## ろうあ者更生寮とミニ農園

前から更生寮で農作業を取り入れてみました。

農作業は会社での仕事とは違い、ゆっくりと時間をかけて、自分達の食べ物を作る、つまり生産活動に自らが参加していく事によつて働くことの喜びを見い出させることができた大だと思つたからです。それ故寮生の自主参加をモットーにしています。なお、農園は、板橋区内の団体農園（約十坪）を借り、肥料も町田市のリサイクル文化センターで作る堆肥を無料で分けてもらい、農薬はほとんど使っておりません。

### 東京都ろうあ者更生寮

ろうあ者更生寮は聴覚言語の障害を持つ寮生に日常生活訓練や手話などのコミュニケーション学習などのほか、昼間は一般の会社で健聴者に混つて実務を習得させ、ゆくゆくは寮から自立して生活できるよう援助する事を主眼としてきました。しかし現在ではこの様な方法だけで社会生活に適応して行くのが困難なケースが増加し昼間も寮に残らざるを得ない人達が多くなっています。つまり社会では人手不足と言います

が、寮生は高齢あるいは不就学の為、社会との適応に問題があつたり、聴覚の他に何らかの障害を併せ持つたり等、様々なハンディキャップを持つ人が多く、入所後すぐには一般就労に結びつきにくい傾向があります。ろうあ者は、社会に出た時すぐコミュニケーションという大きな壁にぶつかりますが、意志を通じ合う事の困難さを理解してくれる会社は少ないのです。一部の寮生は、イライラや不信感がつのつたり、情報不足から閉鎖的になってしまいます。この様な実情に対応する一つの方法として三年

#### ● 三年間の実績は次のとおりです。

(1) 今までに作つた作物

蓮草、カブ、ターサイ、サツマイモ、ピーマン、インゲン、キャベツ、カリフラワー、トウモロコシ、ブロッコリ、チシゲンサイ等

#### (2) 作業の状況

作業を開始した当初は、間引きの時に、苗を全部抜いてしまつたり、肥料と石灰の区別なくまいて作物が枯れてしまつたりといろいろ失敗がありました。ですが、今では皆が畑に来て自分が何をすべきか理解できており、行動もスムーズに



農作業に励む寮生



(指導員 寺田純一)

70年代後半から80年代初頭にかけて、日本各地で「農業療育」が注目されるようになりました。これは、聴覚障害のある児童青少年が、農業活動を通じて社会的適応能力を向上させる目的で行われる教育プログラムです。東京都の「東京都ろうあ者更生寮」という施設では、1980年頃から農業療育を実施していました。この記事は、その取り組みについて紹介するものです。

農業療育の実績として、以下のような点が挙げられます。

- 今までに作つた作物  
莲草、カブ、ターサイ、サツマイモ、ピーマン、インゲン、キャベツ、カリフラワー、トウモロコシ、ブロッコリ、チシゲンサイ等
- 作業の状況  
作業を開始した当初は、間引きの時に、苗を全部抜いてしまつたり、肥料と石灰の区別なくまいて作物が枯れてしまつたりといろいろ失敗がありました。ですが、今では皆が畑に来て自分が何をすべきか理解できており、行動もスムーズに

# 善意のかずかず

平成2年度中に、次の方々から善意の金品のご寄贈を頂き、また、利用者をご慰問下さいました。ここに心から御礼を申し上げます。

## (寄付金) 2・4・1～3・3・31

敬称略 あいうえお順

店街振興組合、太丸屋衣料㈱、高橋忠義、千歳農協婦人部、東急弘潤会、戸田市社協、同榮信用金庫世田谷支店長菅原啓一、

## ○世田谷関係

新井電気、青柳菓子舗、井上洋品店、今井美、井山建設㈱、石井アサ子、魚久、大藏住宅自治会、大藏自動車商会、大藏東部町会、おしゃれ床やボヌール、小方つね、狩野君子、カナイ屋精肉店、加藤かずえ、貝塚富江、笠原六郎、川上雄渾、関東ボウリング場協会、上井恒夫、砧教会学校、砧太鼓同好会、砧商事奈良友雄、砧第五出張所長細野宏享、砧町自治会、砧町会長竹内淳夫、久保谷勝四郎、小池英一、光寿会会長小貫茂、小料理そらべい、厚生車輛福祉協会、作佐部広子、ささ木佐々木隆雄、進藤毅、清水英雄、新藤義松、白川富子、ジャパンレディスボウリングクラブ、昭和女子大付属中高生徒会、世田谷婦人大学学長本多シズエ、世田谷婦人大学消会、世田谷通り商店街振興組合、世田谷区身体障害者福祉協会砧支部、世田谷IKK福祉協会、世田谷区高齢化対策課長、全労済、聖文堂川島春蔵、錢高組砧寮、祖師谷南商

## (寄付物品)

### ○世田谷関係

厚徳、日産建設㈱、日本福祉教育専門学校、沼尻善四郎、浜中米店、ピューティーサロン真、ひたちや精肉店、普濟寺住職

弓場重昌、藤澤静照、八アーサロンスタート、星野商店、細谷まち子、丸山工務店、松本博之、前川栄子、マルサンフルーツ

代表取締役神保三郎、三ツ和会、森政子、山本晴之介、山下英子、焼肉の竹園、八百周山川満、やぶ久、柳屋商店、横山青果店、リビングストア・タカハシ、和光市社協

○東京都ろうあ者更生寮  
但木龍雄、生井澤岩男、飯田製作所、社会福祉協議会

○東京都ろうあ者更生寮  
昌、米屋本店  
秋元君子、石田潮司郎商店、川合（東京）

○友愛荘  
藤勇子、佐藤彰家、佐藤美恵子、柴田一

○友愛荘  
本電信電話株式会社  
止、小峰服飾専門学校長（2回）、小林繁

○友愛荘  
善意銀行経由行事委員会（今井）、キリ

幹、城北技建㈱、下根寿老公、しらゆり美容室、正定寺（原善正）、下小山田町上根寿老公、城南信用金庫原町田支店長、岡師券会会長（3回）、菅野昭正（2回）、玉川学園長、高美台健康友の会会長、東京紀尾井町ライオンズクラブ、東京桜ラゴンズクラブ、東京義髪整形㈱、徳山宮子（2回）、中里ギュウ、ニコニコシルバー会会長、橋本綱吉、原田喜美子、橋本好明（2回）、秀美会、社福法人福音会、藤井小夜子二浦恒男、友愛荘後援会（2回）、吉岡守富

## (慰問)

### ○友愛ホーム

成城消防署少年団、目黒星美学園小学部

### ○友愛荘

大塚千代秀、桜美林幼稚園、小山田桜台保育園、コール忠生、小峰服飾専門学校、下小山田寿老公、下小山田上根寿老公、

下小山田寿老公、下小山田上根寿老公、

岡師寿会、鈴木安夫、高見台健康友の会、

天理教北多摩東部支部婦人会、東京紀尾井町ライオンズクラブ、東京桜ライオンズクラブ、ニコニコシルバー会、ひなた

村人形劇グループ千羽鶴、ぶどうの会、

ボーネスカウト町田第二団、町田ときわ

保育園、みのり幼稚園、弥生会、山吹会、

ボーネスカウト町田第三団、町田ときわ

ボーネスカウト町田第一団、町田ときわ

保育園、みのり幼稚園、弥生会、山吹会、

ボーネスカウト町田第二団、町田ときわ

保育園、みのり幼稚園、弥生会、山吹会、

ボーネスカウト町田第一団、町田ときわ

保育園、みのり幼稚園、弥生会、山吹会、

ンビル㈱（2回）、佐々木千代子、柴田一幹、佐藤光枝、佐藤雄、島田良男（2回）、高橋とし（2回）、株ツムラ、東京都食肉環境衛生同業組合、日清製粉㈱、日本たばこ産業㈱（2回）、ふるさと渋谷青少年社会参加推進委員会（2回）、町山魚イオンズクラブ、東京義髪整形㈱、徳山

宮子（2回）、中里ギュウ、ニコニコシルバー会会長、橋本綱吉、原田喜美子、橋本好明（2回）、秀美会、社福法人福音会、藤井小夜子二浦恒男、友愛荘後援会（2回）、吉岡守富

回）、岡師寿会（3回）、菅野昭正（2回）、玉川学園長、高美台健康友の会会長、東京紀尾井町ライオンズクラブ、東京桜ラゴンズクラブ、東京義髪整形形会、徳山宮子（2回）、中里ギュウ、ニコニコシルバー会会長、橋本綱吉、原田喜美子、橋本好明（2回）、秀美会、社福法人福音会、藤井小夜子二浦恒男、友愛荘後援会（2回）、吉岡守富

